

聖境に立ちて

一四四

聖境に立ちて

Fohn David Provon
西 濱 行 順 譯

幼年の頃から佛、法、僧の三寶に深い歸依を捧げる事のできた私は幸福でありました。十一歳の時始めて佛教に關する書籍に觸れる事ができ、其の時既に「人間の本性」人生に於ける困果法則」に就いて漠然ながら、ある觀念を持つ事ができましたそれが機縁となつて世界の眞の宗教としての釋迦牟尼の教を信ずるに至つたのであります、併しながら此の釋迦牟尼の教を信ずる以前に於て、私の心は、宗教及び宗教上の概念に關して根本的な變化に遭遇しつゝありました。

私がキリスト教の偏狹な教義と獨斷的な教を排撃するに至つた事は直觀的な心の覺醒と相俟つて、宗教の外面的觀察に依る當然の結果でありました。此の頃の私は實に辱しめられた様な失意のその日々を送つて居りました。と言ふのは、その行動や、考へ方に於て、私と違つてゐるばかりでなく私の心理をも充分に理解する事のできない人々に依つてのみ取圍れてゐたからであります。

佛教には觸れてゐた私ではありましたが深妙な法華經の眞理を知らなかつたので私の心は自我で充満し何事をもその自我の

心で觀てゐたので境遇とか自分の周圍におこる出來事等に少しも調和一致する事ができなかつたのでした、併し如何なる困難があらうとも佛教に就いての、あらゆる事を能力の許す限り學びたいとの燃ゆる様な願望が溢れてゐました。

佛教研究に少しでも有効な、英語で書かれた書籍は之を求め只佛教の歴史を研究するに止まらず多くの宗派の教訓的な教も教法をも同様の熱意を以て研究しました。

こうした佛教を求めようとする熱意ある行爲を續けて行くうちに遂に最後の到達点へ達する事ができたのであります。即ちそれは全宇宙の何物にも勝れて貴重な、法華經の發見と言ふ輝やかしくも喜ばしい事でありました。以來私は常に身延山の如き法華經色讀の聖境が必ずあると信じてゐました。縁あつて此の身延山に來る事を得て此の聖地に親しみ私の考の正しかつた事を確める事が出來ました。

日蓮上人の御徳を尊敬、崇拜する一族の中に生れた諸君は眞の法に遭ふ事が如何に困難であるかを悟るべきだと思ひます。此の眞の法を生れながらにして授けられてゐる諸君は實に幸福

であると思ひます。私は精神的に、心理的に、又肉体的にも巡禮者として渡り歩いた後に漸く眞の法を得る事ができたのであります。此の地上にこそ眞の寂光の淨土があるのだとの教に對する深い感激は私の心に充ち／＼てゐます。此の感激は筆では表現し盡されません。

佛教を獨力で研究してゐた私はより深くその教に接する爲、良き佛教の教師を求める事のみ願つてゐたのであります。そして遂に日蓮上人の教を身を以て弘めてゐる僧侶を發見したので、清淨なる精舎で佛の廣大な慈悲に觸れんとして魂の安息所を求めやうと努力致しました。そしてそこで種々の便宜を與えられ、王候、諸候、が訪問した時の様な鄭重な待遇を受けたのであります。

かく佛の慈悲に浴する事ができたのには過古に深い因縁のあつた事と思はれます。大地の中より涌出せる、あの法華經虛空會に於ける無數の菩薩の一人でもあつたのでせう。經典は常に正確であります。

私は唯物主義から出て諸君のお祖師様の深い智慧と廣大無邊の慈悲の光の中へと到達する事ができたのです。此の事實は諸君の宗教が眞理である事を示す一つの例證ともなるでありません。

法華經の眞の法の中に根を下してゐると云ふ点では私も諸君と變る所はありません。私達は法華經に依つて完全に結合せられてゐます。

聖境に立ちて

私の目的はすばらしい諸君の法華經の實踐と禮拜の態度を學ぶだけでなく、私自身の天賦の言葉と習慣とに依つて、全く同じ意味を實現したい事です。

私は日蓮宗をば一國にのみ所有される宗派でもなければ、他の教派に比較される佛教の宗派でもなく全世界の國及び人々に依つて承認され、又承認されるであらう全人類の魂救済の大白牛車であると信じてゐます。

大白牛車——「無邊の内容」「無限の眞理」を持つてゐる法華經の救済——は、あらゆる人々の性向種々の思想とに應じてあらゆる方法を利用し救済するでせう。私は此の聖地身延山に在つて日蓮主義の生活を熱心に見習ふてゐます、私の思想が何時も日蓮上人の思想と共にある事を望んでゐます。

身延山を世界の一部分であると考へる人があるが恰も一物の中に十界がある様に、又森羅萬象が悉く一念の中に攝する様に世界が身延山の中に存在するのであります。此處に於てのみ私達は無知と欲望から自由になる事ができます。此の最高の聖境に於て私達の精神の覺醒の惠福を求めませう。

私は特に眞理を讚美する事、惡を征服する事、自分自身の眞値を認める事を諸君にお願します。

全世界は世界の眞理である我々の教について來ます。法華經を完全に知り、あらゆる苦患を永遠に消滅せん日の一日も早からん事を望んでゐます。人々は誰でも皆自己の内に最高の完全なる自覺を求めようと試みなければならぬ。それはあらゆる

時代に總ての佛に依つて教えられた、救済の唯一の道であります。

此の地上の世界は南無妙法蓮華經を本當に實行する佛陀の清淨なる御弟子達に依つて清淨無垢な窮りない佛の國、常寂光土になります。それは救済の方法ではなく既にそれ自身が私達の目的地なのであります。

法華經の戰士達よ!!

日蓮上人の御弟子達!!

太陽は完全な私達の象徴であり他の總ての物にも同じ様に其等の象徴であります。

私達は悟を人生の案内者とさせ慈悲にまで高め、それを實行

蒙古の喇嘛教

一、喇嘛教と言ふ意味

蒙古は喇嘛教一色である。その喇嘛教は西藏に興隆した宗教である、蒙古人も西藏人も自らの宗教を喇嘛教と言はず佛教と呼び又左様に信じてゐる、佛教と喇嘛教は果して同一宗教であらうか。

之を歴史的に觀察して見るに、喇嘛教の興起したのは前述の

する事を望んでゐます。私達は妙法の崇拜と實行とそれと共に既に實現されてゐる涅槃を自分自身に發見し悟りませう。

皇紀二千六百年九月八日

(附記) 筆者プロボウ氏は、今夏桑港日蓮宗教會主任青柳正法師に伴はれて來山、法主親下の膝下にあつて精進してゐる眞摯なる求道者である。佛教を單に學問として求めるのみでなく、道として、心の糧として求めるのが氏の佛教に對する態度である此の小文は、來山の時の感想の一端であるが、未だ氏は日本語に堪能でないので英語で書かれたものを本學院一年西濱君が日本語にしたものである。

惠寧寺喇嘛

不

日

易

來

如く西藏であるが、西藏には元來ボン教と言ふシヤマン教に類した國民的宗教が存在してゐた、西藏に輸入せられた佛教は已に印度に於て涅槃教に影響せられたものであり、且つ西藏に入りては在來のボン教と妥協して此處に西藏特有の佛教を醸成するに至つた、此を喇嘛教と言ふ。故に本來の佛教と同一でないことは想像するに難くない、たとへ彼等が佛教徒だと自認して